

令和7年度 第2学期終業式式辞

皆さん、おはようございます。まずは、皆さんが本日の終業式を大きな事故やけがもなく、無事に元気で迎えられたことを大変うれしく思います。あわせて、皆さんの日常の生活や行動に感謝します。

2学期の行事としては、大きなイベントとなる体育祭が今年は皆さんの頑張りもあり、無事に実施できました。年次別では、1年次は進路に向けた系列の選択、2年次は修学旅行、3年次は就職選考試験や指定校等の推薦入試など、人生の岐路にたった選択を迫られる大きな出来事や、高校生活の思い出に残る多くのイベントを体験する貴重な充実した時間を過ごせたと思っています。特に、3年次生の進路がまだ決まっていない皆さん、受験終了の合図があるまで諦めずに、悔いの残らないように頑張ってください。

また、この12月には韓国的高校とも国際交流がスタートし、ロータリーには有志による壁画アートの作成も始まっていることを皆さんにお知らせしておきます。

さて、今、家に帰ってでも構いませんので、皆さんに二つの振り返りをお願いします。一つは令和7年、この1年を振り返ってください。2、3年次生には今年は、巳（へび）年で諸説ありますが、へびは脱皮を繰り返し、成長していくところから『再生』『成長』のイメージがあり、今までの自分から脱皮して、更なる成長を遂げてほしいという話を今年1月の始業式で話をしました。皆さん、成長できましたか？していますか？

二つには、この2学期を振り返ってください。始業式では、ウエイトリフティング部の話をしました。身近に「やればできる良いお手本」があるので、諦めずに頑張ろうという話と、2学期は学校生活にも慣れ、生活面で時間のゆとりを感じ、そのゆとりを自分自身に使うことができる一番長く、一番成長できる、充実できる時期であるという話をしました。覚えていますか？

私は2学期の自分自身の目標として、生徒一人ひとりに朝の挨拶、「おはよう」の声かけをしっかりとやろうと、朝に何も用事がなければ、昇降口に立つようにしました。最初は皆さんにとって、違和感であったかもしれませんが、しかし、徐々に皆さんから挨拶をしてくれるように、変化してきました。そうです。違和感も慣れれば、当たり前のこととなり、習慣化されるのです。まさに、これが行動変容であり、自身のターニングポイントにつながります。朝に限らず、挨拶の第一声は皆さんの自己紹介となります。その人柄を知ってもらふ絶好の機会です。最高の挨拶は、大きな声で笑顔があれば満点です。第一印象は大切です。通勤途中で顔も名前も知りませんが、毎朝、スクールーガードのご高齢の方とも今では挨拶を交わす日常となっています。

ターニングポイントという点で、もう一つ話しておきたいことは、サッカー女子U-17日本代表としてワールドカップに出場した2年次生のTさんについてです。Tさんは中学3年時に15歳以下の日本代表にも選出されましたが、骨盤疲労骨折で辞退を余儀なくされ、あの悔しい気持ちを忘れずに前を向いて頑張りたいという気持ちから自分を見つめ直すために日記をつけ始め、再度代表入りをめざし、今回見事に代表入りを果たしてくれました。今回はベスト4がけで敗退となりましたが、Tさんしか見ることのできない世界を経験しました。世界とのギャップを感じ、さらにそれを埋めるために、頑張って飛躍してくれることを期待しています。

また、私は、この夏の東京世界陸上110mハードル決勝後の村武ラシッド選手の「自分に何が足りなかったのか。何が今まで間違っていたんだろう。パリ五輪が終わってからの1年間メダルをとるために必死で練習して、何が足りなかったんだろう。」と泣き崩れながらのコメントを忘れることができません。世界のトップアスリートがここまで自分を追い込んでいる姿をみて、自分の人生の中でこんなに自分に向き合ってきた、これたかなと、この年齢になってもっと自身も行動変容に努めなくてはいけないと猛省させられました。皆さん、改めて今年と2学期の振り返りをして、今日、いや、この時間からターニングポイントにしていきましょう。覚悟を持って、自分に課せられた責任を果たすということです。

最後に、自他ともに命を大切にしてください。そして、健康第一で生活しましょう。いつもお願いとなりますが、本日、帰宅したら通知表とともに、家族に対して「いつもありがとう。」の感謝を忘れずに伝えてください。

3学期の始業式には全校生が元気で、新年とともに一つ年次が進級した意気込みを感じられる姿での再会を期待して、2学期終業式の式辞とします。

令和7年12月24日

校長